

「著者は在宅ホスピス医で被爆二世、四代目のクリスチャンです。ヒロシマへ5度赴き、父の被爆体験をたどる旅を記しました。（中略）被爆し消えていきたいのちと、残された遺族の個別の苦しみの体験を記憶しつづけること。二人称ではなく、二人称の立場で惨劇を語り継ぐこと。それが平和のための闘いだと教えてくれる一冊です。」

（評者…松本あずさ先生／兵庫・はりま平安教会牧師

『信徒の友 2025年4月号』掲載）